

渡前小学校獅子踊りものがたり 第6回「渡前小子ども獅子踊り誕生!!」

いよいよ本番!!
渡前小学校の体育館
での学習発表会（19
97年11月1日）です。
3年生の出演の頃は
体育館が、保護者や地
域の人たちでいっぱい
になりました。

衣裳を着けたり、獅
子頭を付けたり、地域
の人や保護者にお世話
になりました。

先生は、「みんなで今
日まで夢中で練習して
きた。落ち着いて、心
を込めて踊ろうね。」と
そして、一人ひとり
話し、25人みんなで成
功を祈りました。



※土屋和美先生の田川教職員研究物展(1999年2月)から



が真剣に、みんなの心
が一つになって、子ど
も獅子踊りを演じるこ
とが出来ました。

小さな子ども達が力
いっぱい踊る様は、会
場中に感動を与えてく
れました。

子ども達も成功する
喜びを味わうことが出
来ました。

そのときの気持ち
が、お世話になったお礼の
手紙に現れています。



「ぼくはししおどりを
して、さいしよはあし
をはんたいにして、へ
ただったけど、井上し
しよにおしえてもら
って、一ばんめのこと
ろはすくにおぼえられ
ました。二ばんめも三
ばんめもすくにおぼえ
られました。ほんばん
はくしゆをもらえ
かしんばいでした。じ
よつずにできて、ちい
きのみなさんのおか
げだとおもいました。は
くしゆもいっぱいもら
えてうれしかったです。
十一月五日 松浦篤
井上ししよさま」
子ども達が、素直に
感謝する気持ちや、満
足感、達成感の喜びが
表現されています。

渡前小子ども獅子踊り今昔物語 子ども獅子誕生秘話①

渡前獅子踊り保存会 太田功

渡前小の竣工記念事
業から休眠していた獅
子踊りであったが、再
開に向けた保存会の勢
いも増し、参道にのほ
りを立て、焼き鳥や玉
こんの販売という露店
もどきを毎年続けてい
た青年団にも火が付き、
獅子役に目途ついたこ
とから7年ぶりの平成
9年に復活を遂げた。

その年、8月の例大
祭だけでなく、仙台駅
構内で東北管内の伝統
芸能を発信するイベン
ト「みちのくエキコン」
に県代表としての出演
依頼があったことから、
練習にも力が入ったあ
る夜のこと。

暗闇の中で踊りを凝
視している若い女性が
いて、中獅子の井上克
浩が近づくと、なんと

息子の担任の土屋和美
先生が真剣なまなざし
で観ていたのだった。

学校から帰宅しよう
と駐車場に出たところ、
太鼓の音に引き寄せら
れたとのこと。

和美先生は、後に、
その時の感情をこう記
している。

「担任する児童の一人
井上寛君が、大人に交
じり太刀使いとして練
習しているのを知って、
夜遅くまで練習してい
る様子を神社に見に行
って驚いた。腰を低く
し太鼓を打ちながら力
強く踊る姿が実に勇壮
であった。月明かりに
照らされ神秘的な感じ
すらした踊り。初めて
目にして強く心を打た
れた。」… (つづく)

- 1 概要
- (1) 募集期間
令和8年2月18日（水）から令和8年3月19日（木）まで（30日間）
- (2) 意見提出者
9名（意見総数19件）

2 いただいたご意見への対応状況

分類	対応	意見数
賛同	案に対して同意旨の意見、賛同いただいたもの	0
参考	今後の施策や事業実施にあたり参考とさせていただきますもの	19
修正	ご意見の趣旨を参考にし案を修正したものの	0
	合計	19

- 3 ご意見とそれに対する市の考え方
・ご意見等について一部要約等を行っている場合があります。

No.	いただいたご意見	分類	ご意見に対する市の考え方
1	藤島地域の自然や人のつながりを活かした新たな学校づくりに大きな期待を感じている。一方で、不登校やいじめへの対応は、仕組みや校舎の刷新だけでは根本的な解決にはつながらないと感じる。背景には、個の違いが十分に尊重されにくい学校の構造や画一的な評価軸があるのではないかと。実際に、従来の学校で苦しんだ子どもが環境を変えたことで自己肯定感を回復した事例もある。市内にはフリースクール等に通えない子どもや、不登校の一步手前で踏みとどまっている子どもも多い。だからこそ「学びとは何か」を柔軟に捉え直してほしい。自然の中で作物を育てること、地域の食文化や営みに触れることも立派な学びであり、ユネスコ食文化創造都市である鶴岡の強みを活かせると思う。また、地域内の保育実践に見られる子どもの主体性を尊重する姿勢も、学校づくりの重要な視点になる。完成された理想像ではなく、子ども・保護者・地域の人々とともに時代に合わせて柔軟に変化し続けられる学校を望む。	参考	義務教育学校の教育課程につきましては、来年度設置される開校準備委員会で検討することとなります。その中で、いただいたご意見や時代の要請を踏まえた学習活動の在り方、藤島地域の特色を生かした教育課程等についても検討してまいります。この度開校する義務教育学校は、単なる施設刷新にとどまらず、学びの場としても生活の場としても安心安全で、子どもが通いたくなる、保護者が通わせたいと思う、不登校が生まれにくい学校づくりについて話し合っており、いただいたご意見は、今後の学校づくりの参考とさせていただきます。

2	く未来に生きる子どもたちに不可欠であるグローバル感覚とICTに対応する能力を育成する学校」とありますが、AIが作成した情報や映像も氾濫して真偽が判断しづらくなっていくことが容易に想像できる未来に対応するには実体験を増やして自ら疑問を持ち仮定から判断していく素地を養っていくことが重要であると思います。学力ばかりを追い求める学び方ではなく、一貫校ならではの致道館とは違う独自の学びを追求していただきたい。そうすることで、藤島地区だけでも不登校率を低下させ通学に自ら意義を感じる学校になることを求めます。あと、ほかほかの昼食を時間をかけてゆっくり噛んで食べられる給食の時間を確保していただきたい。	参考	VUCAと呼ばれる不確定であまい時代を生き抜くための力をつける必要性は、市としても認識しております。義務教育学校の教育課程につきましては、来年度設置される開校準備委員会で検討することとなります。いただいたご意見は、今後の教育課程検討の参考とさせていただきます。
	基本構想をご提示いただきありがとうございます。結論から申し上げますと、この案に反対いたします。構想を拝見しましたが、このようにうまくいけばいいと率直に思ったところで、その理由が不明です。		藤島地域の義務教育学校の設置につきましては、地域の皆様のご意見を踏まえ決定したところであり、開校に向けた準備を進めたいと考えております。

鶴岡市HPに、意見公募の結果全文が掲載されています。

藤島地域義務教育学校 パブコメは賛同意見がゼロ

藤島地域義務教育学校整備基本構想（案）に対する意見公募（パブコメ）が、令和8年2月18日から3月19日まで行われ、その結果について24日、市HPに公表されました。意見提出者は9人、意見総数19件で、案に対する「賛同」の意見はありませんでした。意見の19件のほとんどは、現実に即した問題を指摘しており、重大です。令和6年1月

29日から2月9日までパブコメでも、29人から102件の提出があり、反対や異論が98件（96%）を占めていました。

▲困るのは、金儲けがしたい電力会社からの献金に応えようと、事故の怖さを忘れていく政権ですヨ。事故から15年過ぎても故郷に帰れない人が2万5、6千人いるんだと。何かがあれば人が住めないんだから。除染の土は東京の離島に運ぶんだってカ。そんなバナナ。無垢の島を人が行けない島にするって事？

▲土以上に持つていき場に困るのは、廃炉でしょ。廃炉にするのに40年必要と言っていたが、場所も決まらず、880トンあるっていうデブリという化け物には手が出せず、もう15年も過ぎたんだヨ。

▲再稼働は、のど元過ぎれば・ですか。断層の關係で再調査が必要な場所も。基礎資料にごまかしがあっても、内部告発が無ければ解らないと言う規制委員会も、基準に合っていればOKを出すのが、安全は保障してないと言った。どうなっているんだよ・日本は。

▲原発を並べて包む日本の海岸線。各々に、事故があった時の避難計画があるそうだが、狭い日本。安全な逃げ場所があるの？。（石川）

梅聴鶯声

東風吹我出嘯去
黄鳥更宜呼友聴
舌澁鶯声春尚浅
微寒三月数枝馨

梅に鶯声を聴く

城貞（藤の花）

東風 我に吹いて嘯に出で去かしめる
黄鳥 更に宜しく友を呼んで聴くべし
舌 澁り鶯声 春尚浅し
微寒 三月 数枝 馨る

雪がとけ なごやかな春の季節になり 春風が私に吹いて 田や畑に出向かいさせる。
春の鳥ウグイスは一人ではなく 友を呼んで聴くのが よろしいようだ。
ウグイスは啼くのはまだ慣れなくて 梅も咲きだしただけばかりで春まだ浅い。
かすかな寒さを感じる三月は、まだわずかな枝が花開いたばかりである。



嘯 田、畑。出 中から外に出る。黄鳥 ウグイス。
更 更またその上。宜 したほうがよい。早梅 早く咲く梅。
舌澁 さえずりがすらすらできない。微寒 わずかな寒さ。
馨 よいにおいがする。

きびちよ



原発再稼働 反対

心臓が潰れる思いで見たテレビの大津波から15年過ぎたが、近頃地震からの復興と言う単語を目にする事が無くなったようだ。だからなんでしょうか、原発の再稼働と言う単語が増えたように思えて。

▲実際・高市内閣になつて新設を・と、原発再稼働にも力を入れるようですが皆さん、これで良いんですか。今でも電力は足りているんじゃないですか。ここ数年、真夏日が長く全国的にクーラー全開でも、節電の呼びかけは聞かないでしょ。